

クロマグロ 温暖化も敵

東大が研究結果

▼太平洋クロマグロ 三
陸沖など日本近海で捕れる
マグロで、高級トロやすし
ねたとして高値で取引され
る。大西洋のクロマグロと
同種とされてきたが、近年
の遺伝子解析では別種だと
する見方も出ている。大部
分は、春から初夏にかけ台
湾沖などで産卵するが、日
本海で産卵する個体群の存
在も明らかになっている。
日本の漁獲量が最も多い
が、近年は蓄養マグロ向け
のメキシコの漁獲量も増
加。水産庁は、一九九〇年
代後半をピークに資源が減
少傾向にあるとしている。

地球温暖化が今のペー
スで進むと、今世紀末に

水温上昇で産卵場所縮小

木村教授は「この場合、
日本海でマグロの親魚の

は太平洋のクロマグロの
主要な産卵海域で産卵に
適した場所が縮小したり
北上したりして、マグロ
の生息に深刻な影響が出
る可能性があるとの研究
結果を東京大学の木村伸
吾教授（海洋環境学）ら

太平洋のクロマグロは
東から西まで広い範囲を
回遊しながら成長する
が、産卵場所は台湾の東
部から奄美大島周辺にか
けての狭い海域にほぼ限
られている。

となると、ほとんどが死ん
でしまう可能性が高いこ
とが分かった。
次に、スーパーコンピ
ューター「地球シミュレ
ーター」による今後の温暖
化と海水温上昇の予測結
果を基にマグロの産卵海
域の温度変化を解析する
と、二〇九九年には水温

と、このころには日本海
に水温が上昇してマグロ
の産卵に適した海域が形
成され、ここがマグロの
大きな産卵域になる可能
性もある。

のグループが二十五日ま
でにまとめた。乱獲のた
め、ただでさえ厳しいク
ロマグロの資源状態が、
温暖化によってさらに悪
化することになりかねな
いという。

研究グループは、温度
を変えたクロマグロの稚
魚の飼育実験を実施。こ
の海域の平均水温に近い
二六度がマグロの成長に
最適の温度で、これより
六度近く水温が低くなっ
ても生存率は変わらない
が、水温が三〇度近くに

が二八度より低い産卵に
適した海域の面積が縮小
し、生き残る稚魚の数が
現在の三七%になってし
まうことが分かった。
ただ、木村教授による

漁獲量が増える可能性が
ある一方、日本、中国、
台湾、韓国などの間での
魚資源の奪い合いが深刻
化することも考えられ
る」と話している。